

ウエストミンスター信仰告白の学び

K. T

4月の夕拝でウエストミンスター信仰告白の「神の聖定」について学びました。この教義は皆さんもご存じのように改革派教会の聖書理解上とても重要な個所です。ずいぶん前のことですが職場の同僚と聖書の話になった時、やはり議論になったところがこの「聖定」と「予定」の解釈です。大まかなところでは話が食い違わないのですが、細かなことになってくると認識が違ってきます。改革派教会はウエストミンスター信仰基準こそ正しい信仰基準であることを表明しているのです。この教理をきちんと理解して知っておくことは大変重要です。自分が信じる神様についてどこかで語る時が来た時にきちんとと言えるのか？その時から実感していました。そこで、今回は聖定についてお話しします。

神様の御計画は知恵と完全さにおいて非の打ちどころがなく正しく用いられ、それは、神様以外のいかなるものにも拘束されず邪魔されず、完全に清さを保ち一点の罪のけがれがなく、その御計画は不変であり、途中で変わることがなく、必ず実現されると書かれています。(詩編33:11=主の企てはとこしえに立ち、御心の計らいは代々に続く。)また、神様がお考えになり、計画したことは、「時間の中に起こってくる全てのことを予定された。」とあります。つまり私たちの周りで起こり得る全ての事と言うのですから、偶然・偶発的なことも、人為的なことも、人間の罪の行為も含んでいることとなります。「くじは膝の上に投げるが、ふさわしい定めはすべて主から与えられる。」箴言、「禍のもととは誰か？くじを引いたらヨナにあたった」ヨナ。

人は「運がいい」とか、「何かの縁」とか言いますが、聖書ではそれはすべて神様の御計画に入っているということです。私たちは口にはしてはいけません(人の罪も含むとは、ヨセフがエジプトに売り飛ばされたのも神様の御計画)。「神があなた方より先に私をお遣わしになった」「あなた方は私に悪をたくらんだが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために今日のようなさした」からわかります。人間の罪も神の御栄光を表すために用いられるのです。ここで大事なことは、「聖定」の教理は、神はすべてのことをあらかじめ計画し、お決めになっているのですが、神様は人間の罪のもとを創ることも、人がそれを犯すことを何ら計画されておられないという点、そして人間の自由性自由意思を保証してくださっているという点から人間の罪の原因は神様には何ら関係がないということが理解のポイントの一つ目です。

もう一つは、神様がすべて計画し決めたことなら、どうして自分には責任があるの？という疑問が出てくるでしょう。でも、そこで「神様のせいだ。」とは考えないということです。聖書は一見矛盾したようなこの神の聖定と人間の責任を教えています。この両者をうまく説明することはできないことを認めながらも、両方共を信じ主張しなくてはならないとあります。(ロマ 11・33「誰が神の定めを極めつくし、神の道を理解しつくせよう」)つまり人は神様の計画や目的を論理的に説明したり発見したりはできないということです。はっきりしていることは、すべては神ご自身の栄光のために聖定されているのだということです。すべては神様の物であり、主権は神様にあるということです。

あるがままに

U. I

我が家には地面に植えっぱなしでずいぶん大きくなったミニバラの木があります。数年前植えた時は張り切って、やれ肥料だ、やれ害虫駆除だ、やれ剪定だといじりまわして、理想通り綺麗なピンクのバラが咲いてくれました。ところがここ数年はすっかり肥料をやらなくなり、剪定もあまりに枝が込み入ったら切る程度。なんだか得体のしれないみの虫軍団まで我が物顔でぶら下がってます。なのに立派なバラが毎年咲きます。ご近所からも誉められ何も手入れをしてない私は苦笑しながらお礼を言います。

もうひとつ、玄関横にメダカがいるスイレン鉢が、これまたほったらかし状態であります。

あまりに藻が張ってメダカが泳げないと思う時藻を取る位。

餌もプランクトンやらで自給自足です。なのに丸々太った健康的メダカが泳いでます。

他にも色々ありましたがこれ位まで。

さて、最近思います。人間は考える頭があって幸せなのかしら？あれこれ理想通りにコトを運ぶために知恵を尽くして、自然に任せず手を入れることは正しいばかりじゃないのかしら？ 神様から与えられたものを自然に任せ上手くいったら感謝。上手く行かなかったらそれも受け止める。あるがままを受け入れるのが本当は幸せでは。

原発再稼働が騒がれる毎日。これは人間に正しく考える頭があればどうするべきか。子どもの方が正しい答えを知ってると思います。

そのままでも有り余るはずの恵みを神様が与えてくださった。

なのに私たち人間は、更に欲張り更に便利に更に多くしようと手を入れることはかり求め過ぎたのは明らかです。

どうか私たち人間が立ち止まる勇気を神様が与えて下さいますように。まだ間に合いますように。そう祈る毎日です。

娘の誕生日を迎えて思うこと

A. H

主の御名を賛美致します。

4月29日に我が家の娘も満1歳を迎えました。この1年、怪我や大きな病気もなく、主によって守られましたことを深く感謝します。また教会の皆様にも可愛がって頂き、本当に娘は幸せ者だなとつくづく感じます。

いろいろな方に子供の成長は早いよ～と言われましたが、過ぎてみればまさにその通りの1年でした。毎日泣いてばかりの最初の3ヶ月が過ぎ、首が据わってくるとあっという間にお座りができるようになり、ハイハイはしませんが、つかまり立ちを覚えて、今では自分で伝い歩きの練習をしています。仕事が忙しく、平日は出張で帰宅しないことが多い私から見ると、帰宅するたびにちょっとずつできることが増えていて、娘の成長をコマ送りで見ているような感じです（その分、妻に負担をかけてしまっていますが・・・。Eさん、ありがとう）。平日はなかなか会えませんが、それでも父親を人見知りせず、私の顔を見ると、キャーと声を上げて喜ぶ娘を見ると、私自身も幸せ者だなとつくづく思います。

子供が成長してくると、果たして私は父親としてどうなのか、と自問することが多くなってきます。「父親たち、子供を怒らせてはなりません。主がしつけ諭されるように、育てなさい（エフェソ6：4）」親の権威が絶対であり、子供に体罰を与えることが当たり前だった当時を考えれば、驚くべき御言葉です。

情報過多の現代では、育児に関する本や雑誌が数多くあり、またネットでは様々な情報が玉石混淆のまま溢れかえっています。子供にとって何が本当に必要なのか、親を通して受け取るべきことは何かということを見失わないようにしていきたいと思っています。主イエスが弟子たちに教え諭されたように、子供に神の言葉を語る。神様から愛されていることを言葉と行いによって伝える。わが身をもってその愛を示していく。それによって子どもの心が健やかに育っていく。私自身も主によって鍛錬され、信仰者として、また父親として相応しい者となれるよう祈りつつ、毎日を歩んでいきたいと願っています。